

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190800033		
法人名	有限会社 きずなの里		
事業所名	みやまの里		
所在地	岐阜県山県市富永 754-5		
自己評価作成日	平成26年12月12日	評価結果市町村受理日	平成27年2月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2190800033-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2190800033-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 きふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成27年1月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>豊かな自然環境の中で、季節の変化や近隣の人々との交流を楽しみながら 思い思いの暮らしをして頂けるような支援を目指しています。利用者お一人おひとりの個性や能力を大切に、ご自身の力で生きていかれるお手伝いをさせていただきます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>山間の自然豊かな環境の中にホームはある。利用者、家族はもちろん、地域のために出来る事として、開設以来、毎年夏祭りを開催している。事業所の地道な努力の継続で、年々地域住民の参加が増え、地域の恒例行事になっている。また事業所の年間行事には、管理者はじめ、職員のアイデアが取り入れられ、利用者、家族、職員の絆が深まっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	作成した理念を個々に持たせ、その根本にある心構えを抜粋し、内玄関に掲げている。さらに毎年、それをもとに各自の目標を立て、各々のロッカーに貼り、勤務に入る前に再認識し、気持ちを新たに業務に臨むようにつとめている。	玄関には理念の「誠心誠意・真心を込めて」が掲示してある。職員は毎年、理念をもとに各自目標をたて、個人ロッカーに貼り、業務に入る前に黙視し、気持ちを新たにケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事へのお誘いを受けるほか、施設の行事にもお誘いしている。また、日常的には散歩時の挨拶や立ち話、農作物のやり取りなど、年を追うごとに広く深くなっているように思われる。天候悪化などの時には心配して様子を観に来て下さる方もある。	毎年、新しい自治会長に挨拶に行き、地域行事へは、誘いを受け参加している。ホームが恒例で開催している夏祭りは、利用者・家族をはじめ、地域住民の参加が去年は350人と年々増え、地域の恒例行事にもなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、施設イベント、慰問など 機会を捉えて地域の方々との交流を深める工夫をしている。その中で、認知症の方々やその家族との交流の場を設け、正しい理解や接し方など体験から支援を実践していただけるようつとめている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みの報告や現状の報告、それに対するアドバイスやご意見を頂くだけでなく、長期に悩んでいたことの解決策の提案なども頂き、会議を活用できるようになっている。が、まだ その時々々の直面した問題を課題とすることが多い。	2ヶ月に一度、行政・自治会長・民生委員などの参加で開催されている。会議では、骨折して入院中の利用者が、認知症のため思うようなりハビリ治療が行えず、ホームでその役割を担っているといった現状報告もあり、その時々々の課題が話し合われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	協力的な担当者に感謝しながらお付き合いを頂いている。現実には直面する問題にも積極的に意見交換ができ、当事業所に対してかなり理解していただけていることを実感している。	地域に住む管理者は、市職員をはじめ医療機関などと交友関係が広く、お互い率直に意見が言い合える関係を築いている。認知症の家族を抱え、困っている地域の人に、少しでもホームが力になれるよう関係機関に相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護推進員養成講習参加者が現在3名おり、中心となって他の職員の意識啓発につとめている。日々の支援の中で、身体拘束は一切行わず、もちろん玄関の施錠は防犯のための夜間のみの実施となっている。	権利擁護の養成講座を、3名の職員が受講している。身体拘束について受講者から全職員に伝達され、十分理解したうえで、日々のケアに努めている。玄関ドアは、日中自由に入出りできる環境にある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様、3名が中心となって、虐待の防止につとめている。虐待そのものはないが、それにつながりかねないような態度や言葉かけなどにも敏感に反応し、各自の反省と改善に繋がるような心がけにつとめている。		

岐阜県 グループホームみやまの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	1年間に一人の割合で権利擁護推進員養成講座への参加を心がけ、伝達講習や日々の支援の中で各職員の中に深く浸透するようつとめている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族が集まる機会に総合的な説明や質問を受けるだけでなく、個々の利用者や家族ともその都度納得が頂けるまでの時間をかけた面談を行っている。また、その他の機会にも、ご家族からのお尋ねに対して時間をかけて対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	関係機関の紹介はもとより、当事業所への直接のご意見などもありたく頂戴するよう努め、こちらの思いも正直に申し上げるように努めることでお互いの信頼を得られるように努めている。また、そのご意見は支援や運営に反映させるように努めている。	日々の生活を通し、利用者の意向や思いを聞き取り、実現できることは直ぐに取り組んでいる。年間行事を通し、家族の意見を聞く機会も多い。新年会は、利用者・家族と職員が一緒の席につき、食事をとりながらゆっくり話し合える場となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週に1回は出来る限りミーティングの時間を設け、忌憚のない意見を聴けるよう努めている。大抵の施設運営に関して、職員の意見をもとに実践されている。	職員の勤務体制はローテーションを組まず、早番・日勤・遅番・夜勤と、職員の希望で固定されている。見直しについても職員の要望を最優先にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々のスキルアップや意欲、勤勉さなど それぞれを評価し、モチベーションの高揚に努めている。また、処遇改善加算の活用や、研修参加費の補助など 待遇の改善にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、講習への参加を奨励するため、シフトの調整や費用の補助等考慮している。また、その成果は参加者だけに留まらせることの無いよう、ミーティングの時間を利用したりして伝達講習を行い、職員全体の成果となるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設運営や困難事例の相談など、以前より不快つながりを構築してきている。また、その数も増えてきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族の思いを多く引き出せるよう伺うことに心を砕き、さらに事前面接には職員を複数同行させ、入所時になじみの顔がある安心さを作り出すよう努めている。また、持ち物は新品を持参するのではなく、使い慣れたものをお持ちいただくようお勧めしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談から事前面接に至るまで、ご家族の思いを十分にうかがえるよう時間をかけている。また、入所されてからも、ご家族が安心していただけるよう、生活の状態をお伝えするように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず 第一のご希望である入所をお受けするのであるが、その後に様々な課題が持ち上がるが多い。他の支援方法や施設移動も含め、医療や福祉なども考慮に入れ、最も相応しい援助方法を見つけるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	多くの支援を必要とされる方は、自然と介護される一方になりがちであるが、残された能力の中で、ともにできることややりたいこと、協力しあえることなどを見つけれられるよう、常に配慮しながら生活をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お任せ下さい・・・とは決して言わない。状態を家族に正直にお伝えすることで、良くて悪くても一緒に悩んだり考えたりしていけるよう努めている。施設の力不足の点もはっきり打ち明け、協力を仰ぐ事例もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や通信などに対しては遮ることなくその仲立ちに努め、依頼されれば協力している。間遠となった面会なども連絡してお願いしている。	2ヶ月に一度、利用者個々の写真を入れた「みやまの里便り」を出している。家族の面会は多いが、利用者が会いたいと思っている人に、利用者から手紙を書いて出す等、職員が後押しすることで、これまでの関係の継続の支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	知らず知らずのうちに、それぞれの利用者の位置づけが決まってきている。大きな支障が無かったり、傷つく方が無い限りはそれを尊重し、仲間意識を大切にしている。家族的な雰囲気が出てきており、それを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で契約が終了した場合はそれで終わりになることが多いが、他の施設への移動の場合は、終了後も面会に訪れたり、相談があればそれに応じたりしている。イベントへのお誘いなどもしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員で利用者の思いをくみ取れるよう努力をしている。さらに2人一組で3人の利用者を担当するシステムを作り、さらに深くその意向をくみ取れるようにしている。それらはミーティングやスタッフノートの活用で共有できるようにしている。	寒い朝にはゆっくり寝ていたい利用者に対しては、無理に起こすのではなく、本人が目覚めるまで朝食を待つなど、常に利用者本位に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の家族や本人からの聞き取りだけでなく、日常生活の中で、知りえた情報はアセスメントの利用やミーティング、スタッフノートなどの活用で全員が共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティングやケアカンファレンスや、介護記録、引継ぎ等を利用し、点での観察だけでなく、帯として見つめていくことで、しっかり把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の報告やミーティング等により、職員からの情報を得る、実際の現場を日々観察する、本人からうかがう、主治医やご家族のお話を伺う・・・等により、総合的に判断した担当者が計画を作成する。モニタリングは、計画をもとに職員、担当者双方が行っており、それも計画作成の参考とする。	利用者の身体状況を踏まえ、本人の思いや、生活歴、家族の意向を取り入れた介護計画が作成している。体調の変化、日常の様子、家族の思い等をモニタリングし、柔軟に介護計画に反映させている。職員はモニタリング内容を口頭で伝えるが、計画書に反映させることが十分でない時がある。	管理者は、職員全員が日常のケアから気づきや変化をモニタリングし、介護計画を作成するよう指導している。口頭で伝えたことが介護計画作成に反映されるよう、継続した指導を期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録をきちんと記録し、次々とそれを引き継ぐことで情報を共有。さらに介護のチェックリストを作成し、毎日の支援を見える化することで、形あるものとして残す。適宜それを追加、削除することで実態に即したものとしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員に関しては、臨機応変、応用力をつける・・・を長期の目標として個々人がその場に即した対応が出来るよう努力している。施設としては、災害時の緊急避難所として市に登録をしている。		

岐阜県 グループホームみやまの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署と近隣の協力を得て行われる年2回の避難訓練、訪問理美容の利用、イベント時のボランティアの協力、警察の巡回、豪雨などの地域の方の訪問や見回りなど、様々の協力を頂き、利用者だけでなく職員も安心して毎日が送れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全面的に本人家族の希望に応じている。主治医とは密に連絡を取り、本人が安心して医療を受けられるよう支援している。基本的に1回/週の訪問診療と必要時の受診、希望科への通院がなされている。入退院に対しても支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設職員として看護師を設置し、利用者の健康管理をしている。主治医との連携を密にし、情報の共有のもとで、滞りなくその指示が励行されることを確認し、利用者が安心して生活できる一助となるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力機関との連携をし、常に情報を提供し、また、情報を受けるよう努めている。入院中も基本的に2回/週は最低でも面会に行くことで、利用者の状態を把握することに努めている。家族とも連携をして、家族が利用者を介護しやすいように便宜を図ることに心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時から、終末期を想定しての話や同意書の提示、医療との協調などを行っている。当施設における介護の限界などもあり、ことあるごとに家族との話し合いを持つよう心がけ、お互い十分理解しあっている中で、本人にとって 最も良いと思われる支援が出来ることを願っている。	看取りについての指針と体制がある。以前、近親者がなく、延命措置を望まない利用者を、ホームで看取った事例がある。入居時や利用者の状態変化時など、その都度説明・確認をし、利用者・家族の意向に応じた支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の消防訓練時に、講習会という形で訓練を受けている。さらに、マニュアルの整備、ミーティングの際の講習など、実践を踏まえながら 知識としても取り込むことが出来るよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に対しては、訓練も実施しており、職員ばかりか利用者も参加して身につけてきたが、水害は実際に避難した経験が1度あるきり。地震については訓練も経験もない。近隣には協力をお願いしてあるが、実際にはどうなるのか不安。水や食料の備蓄はしている。	年2回(5月・11月)消防署との合同訓練が行われている。初期消火、避難誘導等以外にホーム独自で災害場面を想定し、消防署員を巻き込んだ訓練が行われている。備蓄の用意もあり、地域住民の緊急避難も受け入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の体調や排泄など、個人の尊厳を守るうえで配慮しなければならないことなどは、人前で報告しないなど、各々配慮しながら支援しているが、時に親しくなりすぎたがゆえに失言してしまうようなこともありうるので、職員間での確認をしあうことが大切。	職員は、利用者個々に応じた丁寧な声かけやケアを行っている。個々の生活リズムを十分把握しているため、必要以上の声かけをしないで、見守り支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細な事でも自分で決めた、選んだということを実感していただけるように、いくつかの選択肢を設けることを基本に、生活上の様々な場面で努力している。ご自身の言葉でご自身の思いを表現していただくことを目標に日々支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴に関しては、職員数や時間の配分などにより、施設側の都合によっている。その他については、時間も行動もご本人の思いを基準に過ごしていただけるように努めている。退屈なご様子の時には、こちらからレクや作業などを提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容の利用、洗面時の整容、肌の手入れ等の支援。化粧希望時に対応できるように化粧品の整備、衣類へのアドバイスや、繕いなどに努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的には食材業者からのメニューや食材を取り入れている。2日/週は里メニューとして希望を聴いたりしながら職員の献立で提供している。時には喫茶店や、希望を聞いて外食に出かけ、好みに注文していただくこともあり。	週2回はホーム独自のメニューを、利用者の希望に応じて調理している。ホーム裏の畑で収穫した野菜や、手作りの梅干・漬物が食卓を賑わしている。大きなテーブルを囲み、利用者、職員全員の顔が見える食卓である。ほとんどの利用者が箸で食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々人の記録をきちんととり、摂取の状態を観察し、情報を共有し相談することで、その方の好みやパターンなどを理解する。主治医との連携をもとに、食材や調理法、盛り付け、時間などの工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕だけでなく、毎食後の口腔ケアの実施、緑茶でのうがいや洗剤の使用などで、清潔を保つ。ご本人に実施していただいた後は必ず職員によって磨き直しや確認を怠らない。義歯の手入れなど、一人一人に合わせたケアを実践している。		



岐阜県 グループホームみやまの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の意思でのトイレの付き添いだけでなく、個々のペースに合わせた誘導を行うことで、失敗を減らし、安心できる生活を作り出す。おむつ使用だった方も徐々に紙パンツや布パンツへ移行させていくことで、トイレでの気持ち良い排泄の喜びを獲得していただけるよう努力する。	入居時はリハビリパンツであった人も、排泄リズムを把握し、適切な誘導支援を継続した結果、今では日中は、ほとんどの利用者が布パンツにパッドで過ごしている。夜間のみ、オムツ対応の人が1名ある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動、外気浴、散歩、水分摂取、おやつや食事の工夫等で、予防に取り組んでいる。早朝の冷水や冷牛乳等は効果がみられる。また、主治医との連携で薬剤の使用やマッサージその他の方法についても考慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望を尊重しての入浴は難しい。3回/週の入浴がやっとで、その他の日は、足浴で我慢して頂いている。しかし、その足浴が功を奏してか、入所時に酷い水虫を持っていらした方も、程なくして治癒されている。	週3回の入浴は午後に行われている。入浴のない日も足浴で、血行や皮膚トラブルの改善に努めている。浴室・脱衣室は清潔に整理整頓されて、気持ちのいい入浴が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一律に就寝・起床時間などを決めず、ご本人のペースを尊重している。ただ、他の利用者の迷惑にならないということが原則であり、その方の節度ある生活を期待している。昼間の刺激や変化、疲労感などで良眠出来るような工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の理解は勿論であるが、事故なく確実な服薬支援が出来るよう様々な工夫をしている。また、毎日のバイタルチェックをはじめとして、個々の状態観察と報告を大切にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクや外出だけでなく、協調して取り組める軽作業や、個々の能力に応じた手伝い、趣味の継続にも努めている。喫煙や飲酒等も適度の量を守って楽しんでいただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調を考慮し、散歩や寺参り、買い物、外食などを計画し実践している。個人的に希望の外出支援は現在は出来ていない。それらの場合はご家族に依頼して満足していただけるように努めている。	天候に応じてホーム周辺の散歩や、近くの寺に出かけている。買物や外食の外出もあり、家族への協力依頼もしている。	



岐阜県 グループホームみやまの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に個人持ちでの金銭は遠慮していただいている。すべて、ご家族から管理者がお預かりし、管理している。希望が有ったり、買い物に出かけるような場合は、そこから必要な金額を出して所持していただくことになる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話の使用はでき、また、受けの場合も制限はしていない。手紙やはがき、荷物なども自由にやり取りが出来るように、必要な支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	うるさくなり過ぎない程度の飾りつけや物の配置の工夫をし、適度な外光の取り入れ、音量の調節、室温の調整などに配慮している。時節に合った利用者の作品の展示等にも努めている。共用スペースではあっても、個々の寛げる居場所となるよう配慮している。	建物はシンプルな構造である。玄関から廊下を伝い、奥にキッチン、居間兼食堂が広がっている。トイレ、浴室を含む共有スペースは掃除が行き届き、臭いもなく気持ちよく過ごせる空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の好みの場所というのが自然に出来てきており、なるべくそれを乱さないように配慮している。必要時には声掛けにつとめ、了解を得ることを忘れない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には新規購入をなるべく避け、なじみのあるものを持参していただくようお願いしており、その空間はレイアウトなど個人の好みで利用していただけるよう配慮している。	居室は全室南向きで日当たりがいい。亡き夫の遺影に毎朝お仏飯を供える人や、家族の面会時にゆっくり座ってくつろげるよう、床にホットカーペットを敷いている人など様々である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には障害物となるような物は一切置かないことを基本としている。死角を作らない設計で、内部全体を見渡すことができるため、利用者の安全確保、安全確認にはよい。それは、利用者の行動制限が少なくて済むことでもある。		